

第10回臨床研修医交流会

と き 平成30年8月25日(土) 15:00～

8月26日(日) 9:00～

ところ ユウベルホテル松政3階「芙蓉」

[報告:代表世話人/山口赤十字病院 須賀 昭信]

平成30年8月25日から26日の2日間、山口市湯田温泉のユウベルホテル松政において第10回臨床研修医交流会が開催されました。参加者は研修医86名、指導医等41名、計127名でした。本年は山口赤十字病院が当番幹事を引き受け、当院研修医の清家崇史先生が代表幹事を務めました。また、山口県内の臨床研修病院から11名の研修医に幹事として参加していただき、4月、5月、6月に計3回の幹事打合会を開催して準備を進めました。清家先生の胸襟を開いた屈託のない司会のおかげで皆さんすぐに打ち解け、積極的な意見や提案が次々と出され活発な討議が行われました。また、打合会の間には幹事同士でメールによる打ち合わせも行い、次第に連帯意識が熟成されていくのが傍からもよくわかり、安心して議事の進行をみることができました。

当日は清家先生の総合司会により、県医師会長の河村康明先生、山口県健康福祉部長の中野 恵様のご挨拶で始まり、県医師会専務理事の加藤智栄先生が医師会と山口県医師臨床研修推進センターの事業について説明されました。医師会の構成から医師会が携わっている広範な事業を分りやすく丁寧に説明していただき、研修医にはまだ身近に感じにくい医師会の重要性について再認識したのではないかと思います。

続いて、特別講演1として山口大学大学院医

学系研究科小児科学講座の教授に昨年度着任された長谷川俊史先生から「小児科学の魅力～すべてのこどものために～」と題してご講演いただきました。アレルギーの話題では基礎から臨床にわたり幅広い内容を分りやすくお話しされ、研修医にとっては明日から直ぐに役立つ知識を多く得ることができたのではないかと思います。また、留学の大切さについてご自身の留学先であったサンディエゴの写真を多数示されながら情熱的にお話しされました。私のような門外漢が聞いていてもとても面白く興味深い内容で、参加された指導医陣からも「勉強になった」という声が聞こえてきました。

その後、アイスブレイクとして幹事の説明の後、「他己紹介」が行われました。これは隣の人にまず自己紹介を行い、次に隣の人がある内容をグループ内で発表するというユニークなもので、グループ内が和やかな雰囲気となりました。そしてグループワーク「行列のできる研修医相談所」が行われました。AからKまで11班にグループを分け、それぞれで研修中に経験したヒヤリハットや失敗談をスライドにまとめて発表するものです。演技を交えながら発表するグループや、ウイットに富んだ発表をするグループなどがあり、大変興味深く拝聴させていただきました。

部屋を変えて19時から、もう一つのメインイ



長谷川俊史 先生



小山雄太 先生

ベントである懇親会が開催されました。済生会山口総合病院研修医で幹事の須藤優太郎先生の司会の下、開会にあたり村岡嗣政 山口県知事（代読）、山口大学医学部附属病院教授の木村和博先生からご挨拶をいただいた後、小生の乾杯で開会いたしました。食事やお酒が進むにつれて打ち解けた雰囲気となり、久しぶりの再会や近況の情報交換などで座の雰囲気は一気に和んでいきました。恒例のビンゴ大会で盛り上がりは最高潮になり、気がつけば閉会予定の 21 時になっているという状態でした。県医師会副会長の林 弘人先生から中締めのご挨拶があり、第 1 日目のプログラムはすべて終了いたしました。会の終了後は気のあった仲間たちと連れだって湯田温泉の夜の街並みに繰り出していきました。

翌 26 日は、前夜の疲れをものともせず、ほぼ全員が定時前に集合し 9 時に開始しました。山口大学医学部附属病院医療人育成センターの前田敏彦先生の開会挨拶に続き、特別講演 2 として日本海総合病院腎臓膠原病内科診療部長（兼）内科部長（兼）人工透析室長（兼）救命救急センター診療部長の小山雄太先生から「体液・電解質管理をみんなで考える」と題してご講演いただきました。Q&A 形式での進行で、普段取っ付きにくいと感じる水、Na の管理を図と症例を交えながら大変わかりやすく解説されました。最後には熱心な質疑応答があり、傍聴していた関係者にも高評でした。

休憩の後に、幹事の研修医の発表による症例検討会が行われました。異所性妊娠とメトホルミンによるビタミン B12 欠乏が原因で発生した貧血の 2 症例で、質疑応答には小山先生も加わり、大変盛り上がりました。最後に、へき地医療での研修について実際に経験した幹事からの報告が



グループワークディスカッション

ありました。長門総合病院、見島診療所、大島診療所などでの研修についての話題で、仕事の内容以外に生活面の状況などを詳しく説明していただき、1 年目の研修医にとっては大変興味のある話題であったと思います。

充実した時間が過ぎ、予定の内容を終了した後、県医師会常任理事の中村 洋先生より前日のグループワークに対するベストプレゼンテーション賞の発表が行われました。この賞は参加研修医相互の投票によるもので、皆が納得の受賞でした。

最後に、県医師会副会長の今村孝子先生の閉会の挨拶が行われました。「初期研修修了後一旦県外に出てまた戻ってきてください」とのコメントが印象的でした。来年度以降もこの会がさらに継続発展されることを期待いたします。

終わりに、今回の交流会の開催にあたりご尽力いただいた病院幹事の先生方、県医師会の加藤専務理事、中村常任理事や事務局の方々及び山口大学医学部附属病院医療人育成センターの前田先生には大変お世話になりました。また、ご多忙中、ご出席いただいた関係者の方々にも誌面を借りて厚くお礼申し上げます。

第 10 回臨床研修医交流会を終えて

[報告 : 代表幹事 / 山口赤十字病院研修医 清家 崇史]

8 月 25 日及び 26 日の 2 日間の日程で平成 30 年度臨床研修医交流会が山口市のユウベルホテル松政にて開催されました。本年度の主幹病院は山

口赤十字病院であり、代表世話人を須賀昭信先生、代表幹事を私が務めさせていただきました。準備段階から当日まで、多くの方々にご協力を賜

り、厚くお礼申し上げます。

事前準備では、山口市で幹事打合会が3回にわたって行われました。各病院の幹事が皆、積極的に意見を出し合い、よりよい交流会になるように話し合いました。昨年の交流会に参加した幹事が多くおり、昨年の方がよかったところは残しつつ、参加者が楽しめるようなプログラムになるように尽力しました。

今年度の特別講演は、山口大学大学院医学系研究科小児科学講座教授の長谷川俊史先生に「小児科学の魅力～すべてのこどものために～」という演題でご講演いただきました。研修中に救急外来でよく経験する食物アレルギーの話から、先生の海外留学でのご経験と魅力についてなど非常に興味のある話題で多くの研修医が聞き入っていました。

その後、アイスブレイクとして他己紹介を行いました。趣味や最近の出来事についてなど、同じ班の隣席の人を班員に紹介することで他県から来た研修医を含め、打ち解けるきっかけになりました。

その後は、「行列のできる研修医相談所」という演目でグループワークを行いました。研修生活の悩みや失敗談などについて各班で話し合い、ためになる話や面白い話などさまざまありました。他人の失敗談を聞いて今後気を付けようと考えたり、失敗談を話すことで気分が晴れたりした研修医が多かったのではないかと思います。

1日目の最後には懇親会が開催されました。済生会山口総合病院研修医の須藤先生の軽快なアナウンスのもと、大いに盛り上がりました。特に懇

親会の目玉でもあるBINGOでは各病院の豪華景品を目指し皆熱中していました。景品を提供していただいた各病院の先生方、関係者の方、大変ありがとうございました。各テーブルで先生方と研修医で楽しく交流されており、皆さん満足されたのではないかと思います。

2日目は日本海総合病院腎臓膠原病内科診療部長（兼）内科部長（兼）人工透析室長（兼）救命救急センター診療部長の小山雄太先生に「体液・電解質管理をみんなで考える」という演題でご講演いただきました。研修期間中にどの輸液をどのぐらいのスピードで投与すればいいかというのはだれもが悩む問題だと思いますが、基本から丁寧に説明いただき大変勉強になりました。また、質問形式であることで楽しみながら考えることができました。

その後、症例検討会を行いました。1症例目は私が子宮外妊娠についての症例検討を行いました。皆さんに楽しんでもらえるようにクイズ形式にしましたが、ある程度は楽しんでもらえたのではないかと思います。2症例目は山口労災病院研修医の大輝祐一先生がメトホルミン長期投与による貧血の症例を分かりやすく熱心に説明されていました。その後、山口県の地域医療について説明しました。皆さんに楽しんで学んでいただければ幸いです。

最後に、1日目のグループワークで優勝した班の発表と豪華景品の贈呈を行いました。優勝した班は、臨床研修医交流会の刻印入りのペンライトを貰い喜んでいました。

今回の交流会を通じて、山口県で研修を行っている研修医と指導して下さっている先生方との繋がりが深まり、楽しく医療について学び、今後の研修生活がよりよくなるような有意義な会であったと思います。この交流会を開催できたのも、山口県医師会の皆様方と世話人を引き受けてくださった須賀先生、また、各病院の関係者の方々、幹事の先生方のお陰です。この誌面を借りてお礼を申し上げます。今後もこの交流会で得たことを活かし、日々研修に励んで参りたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。



グループワーク発表